

シリーズ3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン④

フランネルソウ

職藝学院

教授 渡邊美保子

フランネルソウは、南ヨーロッパに自生している宿根草です。スイセンノウやリクニス・コロナリアとも呼ばれています。葉と茎には、柔らかそうな白い毛があるため、全体的にクリーム抹茶色に見えます。植物とは思えない毛織物のような触り心地です。花は、5月末から7月下旬頃まで咲きます。おもな花色は、赤紫(写真1)と白です。茎の先に花が咲くので、花がふわふわと空中を浮いているような咲き方をします。



写真1 手前からフランネルソウの赤紫色の花、一年草のオルレア(白花)、バーバシカム・ニグラム(白花)イトススキ。6月中旬。

フランネルソウの茎には、ウサギの耳のような向かい合う2枚の葉が出てきます。茎のてっぺんに直径4cm位の花が一つ咲きます。これで終わりではありません。咲いた花がくたびれてくる頃、その花の6cmぐらい下に付いている2枚の小さな葉の間から「そろそろ出番ですね」と言わんばかりに、つぼみが一つ顔を出します。つぼみをもった茎がどんどん伸びて、また2枚の向かい合った葉をつけて、その茎の先に花を咲かせます。これをせっせと繰り返して小出しに花を咲かせながら草丈を伸ばします。そのため、一つの花の命は4日から5日ですが、花は2ヶ月ぐらい楽しめま

す。花が終わると、花びらはこげ茶色に染まり小さくなりますが、気になるほどではありません。あまりにも時間をもてあましている方は、花がしぼんだら、花のすぐ下にある葉の上で茎ごと切り戻しましょう。楽しくなる方は、続けてみてください。面白いフランネルソウの形ができるかもしれません。

フランネルソウは、命の短い宿根草のため、2年から3年後には自然に消えてゆきますが、こぼれ種で芽がでます。種ができる頃は茎がからみあって、こんがらがって見えてきますので、思い切って茎を根元から切り戻してください。茎を切ると、銀色の綿毛につつまれた波打った葉が地面から直接出ているのに気づきます。これが、翌年に咲く株になります。茎を切り戻して葉っぱにだけ養分を吸ってもらいますと、寿命が少し延びるようです。

フランネルソウのデザインは、とても簡単です。花と茎の色が似ている白花を植えてみてください(写真2)。花壇がやさしくなります。フランネルソウは、お庭で遊牧民のごとくふるまいます。こぼれた種が飛んで行った所が気に入れば、そこで元気に芽を出します。自由奔放なフランネルソウには、思いもよらないデザインをフランネルソウに任せるのが一番です。日当たりが良く乾いた所が好きで、肥料もたくさん欲しがりませんので、一株植えた後は、どんなふうにも花壇を移動してゆくの、のんびりとながめるだけで良い花です。



写真2 フランネルソウの白花。6月中旬。草丈80cm。